

# ASAP

Asia School Attendance Partnership

# カンボジア通信

NPO法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会

## 10周年記念号



高校建築決定を喜ぶトロピアンブレイ中学校の生徒達

## 2017.4

- 創立 10 周年を迎えて 長谷川理事長…P1
- 第 27 回視察訪問のご報告…P2
- 高校寄贈決定・最新ニュース…P3
- 10 周年記念特集…P4
- 皆様からのメッセージ…P5～12
- 10 年の歩み…P13～15
- 各支援校の様子…P16～21
- 取り組んだ様々な活動…P22～28
- Mother to Mother 活動…P29～30
- 色々な交流がありました…P31～32
- 様々なご協力有難うございました…P33

## Vol.19

## 創立 10 周年を迎えて

理事長 長谷川 安年

NPO法人アジアの子どもたちの就学を支援する会（ASAP）は創立からお陰様で 10 周年を迎えることができました。理事長としてこれほど嬉しい事はありません。皆様からのご支援に改めて厚く御礼を申し上げます。

今までも何度か申し上げて参りましたが、2000 年に観光で夫婦で初めてカンボジアを訪れた際に見た小学校の風景が、私の活動への駆動力になっております。先生不在のボロボロの学校、泥水で手を洗うはだし子ども達。カンボジア王国のポルポト政権による自国の知識人抹殺という暴虐活動の後遺症は、私の想像をはるかに超えた激しいものでありました。教育制度を立て直し、復興に最も重要な人材育成が必須なのは明らかでありながら、自国でそれを成す力さえないカンボジアの現状でした。

日本の戦後、校舎や教科書がなかった私自身の体験と重なり、今、自分が力を貸せるのであれば力になりたい、という強い思いがこみ上げたのです。

しかし、当時外国からの支援を届ける体制がなく、思いを形にするのは簡単ではありませんでした。5 年という月日が過ぎたある日、故 池田五郎氏がタイ大使を通じて在日カンボジア大使をご紹介下さり、小学校を寄贈するという事が実現できたのです。

それが 2006 年寄贈のトロク小学校校舎です。落成式には大勢の友人が現地を訪れて下さり、その後の ASAP 設立の活動の導火線となりました。

それから 10 年、小学校校舎 7 校、中学校 1 校、図書室、作業所、宿舎、給水施設など多方面にわたり貢献することが出来ました。さらには現在、支援地区からの切望に答え、自立と発展に寄与すべく高等学校の設立に着手しました。11 月の新学期に開校予定です。

支援開始 10 年で、「国を立て直す為の高等教育を受けた国民の育成」への道筋をつけるまで活動を推進できたことは幸甚の至りであります。これは決して私一人ではなし得なかったことであり、皆様の思いと善意があったからこそと感謝で一杯であります。

しかし、「学校」が建ってもホッととしてはならないのがカンボジアでもあります。支援した「学校」が真に機能し、地区の子ども達が実のある教育を受けられる様支援するという、ASAP の理念を胸に、90 歳目の私ではありますが新たな 10 年に向かって進む所在であります。

今後共活動を見守って頂きご支援賜りますよう心からお願い申し上げます。



トロク小学校の先生達と

まずは去る 1 月に実施致しました 27 回視察のご報告、最新ニュースをお伝え致します。

## 第 27 回訪問報告

去る 2017 年 1 月 20 日～25 日、理事長、ASAP スタッフ計 4 人で下記スケジュールでの視察支援訪問を終了致しました。

昨年 9 月より成田からプノンペンへの直行便が就航となったため、利用してみましたが、荷物の受け渡しが非常に煩雑で、他の方をお連れしなくて良かったと胸をなでおろしました。

今回皆様と喜ぶべきことは、**タットム、トロク小学校教員への教育支援金の支給を今回で終了**としたことです。国からのお給料が上がった事と、学校運営が非常に順調に進んでおり終了しても大丈夫と判断した上の事です。「限られた支援金を必要な所へ届ける」という事に先生達も納得してくれました。

一番驚いたのは昨年 8 月寄贈のワットルン小学校の旧校舎がもう取り壊されていた事です。タットム小学校では教育長と大げんかまでして数年かかったというのに。あの苦労は一体何だったのでしょうか。

プノンペンに寄贈した「ワットタメイ小学校」視察、開校が決定したトロピアンプレイ高校建築にむけての現地視察、近隣の高校視察等を終え無事帰国致しました。

1 月 20 日	プノンペン着
21 日	ワットタメイ小学校視察 シェムリアップへ移動
22 日	トロク、タットム視察 ワットルン小学校視察
23 日	ドンムレイ高校視察 コールタメイ小学校視察 トロピアンプレイ中学校 高校建築予定地視察
24 日	Mother to Mother 活動 夜プノンペンに移動 帰国
25 日	日本到着



中学生がお出迎え！進学する高校ができる喜びが溢れていました。



建築予定地で打ち合わせ



「これを売って学校の為に頑張ってください」と村人から校長に贈られたお米の山。この様な事を見ると私達も頑張ろう！という気持ちになります。

新着ニュース

# トロピアンプレイ高校寄贈決定

「2014年に開校したトロピアンプレイ中学校地区は高校が遠方で、進学を諦めている生徒が大勢いる。2017年秋に卒業生が誕生するが高校を建ててもらえないか」という相談を受けました。ASAPが支援を始めた10年前は小学校不足が顕著でしたが、就学率が向上すると共に浮上してきているのは中学、高校不足です。

ボルボト政権で行われた知識人大虐殺の影響で、現在でも20代以上で高等教育を受けた人材が極端に少ないカンボジアでは、高等教育を受け国を引っ張っていける人材育成が重要課題です。私達もこの10年間「教育を受けた国民が極端に少ない国」の大変さに事あるごとに直面してきました。やっと高校進学者の増加という所までできております。貧困地域に小学校から高校までであるという事は、村の子ども達の将来性を広げる事に直結します。予算不足ではありますが、(株)ラッシュジャパンからの200万円の建築費用への助成が決定した事もあり、私達は高校建築を決定致しました。



学校運営委員会との話し合いの様子

## 既存高校の様子

1月の訪問で、21キロ遠方に立つ高校を視察しました。在校生は1200人(周囲から集中する為)やっと体育の授業が行われるようになったようですが、音楽美術はまだないそうです。良くみると、校庭の隅に水が溜まっている穴が。砂場だそうです…。学校裏に広がる湿地帯は、実はグランド!! ASAPの高校でこうならない様に気を付けなくては…。



学校の奥地に広がる湿地帯は実はグランド!

## ■(株)ラッシュジャパンより 高校建築への助成を頂きました

「近年学校建築にはあまり助成をしていないのですが、ASAPが継続した支援しているのを知っていますし必要性が高ければ助成しますので、応募してみてください」との助言の元、助成プログラムに応募したところ、200万円の助成が決定致しました。総工事費700万にぎりぎりですが着工しました。

## ■ゆうちょ財団より Mother to Mother 活動強化に助成が決定しました(80万円)

NGO海外援助活動へ、事業の総経費の一部を助成する一般財団法人ゆうちょ財団の助成が決定しました(25回応募中11)Mother to Mother 活動、特にカンボジア国内での販売強化を進める為に活用します。

アジアの子ども達の就学を支援する会  
Asia School Attendance Partnership

# 10周年記念特集

この様なことを続けて行って成果が出るのだろうか、と時々不安になりながらもただひたすらできることに取り組んで進み、気づけば10年という月日が経っていました。

今振り返ってみますと、小さな一歩を積み重ねた結果、微力ながらも確実に支援地区の教育に貢献できたことに喜びと安堵を感じております。

同時に小さなNPOが数々の困難を乗り越えここまで出来たのは、カンボジア国内、日本国内において活動を支えて応援して下さいました皆様のお蔭以外の他ないと痛切に感じ、感謝の念でいっぱいになります。

**お力を寄せて頂きました皆様に  
改めて心より感謝申し上げ、  
10年という節目に  
これまでの活動の歩みを  
まとめました。**



※文中のバーコード  を読み取っていただくと、現地の様子をご覧になれます！

**ブンペンで建築会社KHJを経営するシンホンご夫妻です。お二人は長年日本に留学されて帰国し、ASAP発足以来、建築、通訳など幅広く支えて下さいました。現地事務所なくASAPがここまでできたのはお二人の助けがあったからこそです。**

## KHJ社長

## ブン シンホン

## シンホン様の奥様

## ヘインチャンボツパー

初めて長谷川理事長と出会ったのは今から丁度 12 年前で、私が日本でカンボジア大使館に勤めていた頃でした。大使館を通じて ASAP を紹介して頂きました。そしてその 2 年後（今から丁度 10 年前）シムリアップのトロク小学校に寄贈した校舎の雨漏りで皆さんが困っていて、私とその修理作業を責任持って実行したことから ASAP 活動と関わるようになりました。

学校支援活動というのは大変厳しい活動で、中途半端な気持ちと行動ではとても長く維持できません。しかし、ASAP は学校や生徒ら、そして先生達に気を配ってカンボジアに訪問するたびに学校の進歩、教育の面だけでなく学校の環境問題や至るところまで学校と先生達を応援しながら年々活動を広げてきました。活動の中で厳しくて苦しい事があったその中で、何回も感動や感激をこの ASAP の皆様や現地の人たちと一緒に考えてたり喜んだりしてきました。

ASAP の活動はカンボジアの子供たちそして支援先の地域の人々に喜びと希望を与えてきました。その結果、支援校の就学率と進学率が引き上げられて、中では卒業して教師指導訓練学校で先生の免許をとって学校に戻り立派に教師職を務めている先生達が大勢います。

私は長谷川理事長をはじめ、ASAP の皆様との出会いは人生の中で一つの大切な宝になっており、人々に希望をもたらす皆様の活動はカンボジアの人々にとっていくらお礼と捧げ言葉を申し上げてもたりません。そしてこの 10 周年記念日をもってカンボジアの先生達と子供たち、そして村の方々を代表として感謝の気持ちと祝福を心より申し上げます。これからも ASAP の益々の繁栄、関係者の皆様のご健康と御幸せを心より願ってやみません。僕も ASAP が継続する限り、ずっとご協力させて頂きますのこれからもどうぞ宜しくお願い申し上げます

ASAP の主な目標は未就学児童や途中で休学する生徒らをなくす事ですが、学校をやめる最大の原因は家計の問題で、高学年の小学生の中退が多くみられました。

9 年前に大沼さんから、『縫い物で子供たちの家庭に少しでも力になれるのでは』と相談を受けました。私は賛成して応援の言葉を送りました。大沼さんは早速行動に出ていよいよマザー活動が始まりました。最初は村の貧しい家庭のお母さん達を 10 名選んで、ヌー先生指導の下で縫い方を教わりました。お母さん達はほとんど針を持ったことがなく手作業は不器用でしたので始まり頃は本当にとっても大変でした。商品を仕上げでは日本でボランティアのお母さんたちにチェックをしてもらい、縫い直しは度々ありました。技術を上達させる為にも大沼さんを含めて日本からやってきたお母さん達が現地訪問し、カンボジアのお母さん達に縫い方を教えてきました。今ではカンボジアお母さんたちも上達し、綺麗な商品を縫えるようになりました。

このマザー活動で大きな変化がありました。それはマザー活動のメンバーでそのお金を貯めて、中学校へ進学する子供に教材や自転車を購入したり、大学に通う息子に少しでも仕送りをする家庭が現れた事です。活動を通して自立の感覚が体験させられ、充実感が実感でき、無口だったお母さん達はより明るくなりました。子供たちに学校を辞めさせない主張の強いお母さんになりました。

この様に活動は地域やお母さん達に変化をもたらしました。ASAP の皆様と一緒に私も『現地のサポートメンバー』として一生懸命支えて参りました。ASAP と現地の力があったからこそこの素晴らしい活動が成り立っているわけで、これからも全員の力が欠かせません。これからもずっとこの活動の継続を祈っています。長谷川理事長と大沼副理事長、そして ASAP メンバの方々に、私はお母さん達と子供達の代わりに感謝と感嘆・敬愛を心を込めて申し上げます。私もできる限りこれからも ASAP 兼マザー活動に協力をし、ずっと応援していきたいと思っています。

ASAP10 周年、誠にありがとうございます。皆様の活躍はこの地域の人々に幸せ作りを時間と尽力・お金をかけて教えてきました。本当に有難うございます。これからもどうかご活躍・ご繁盛・ご健康を願ってやみません。

# 皆様からのメッセージ

(掲載 50 音順)

## ASAP 活動十周年記念誌祝辞

秋川ロータリークラブ会長 鶴田 和男

ASAP の活動 10 周年、並びに記念号の発行誠に  
おめでとうございます。長谷川安年ご夫妻を始め、多摩  
川幼稚園関係者の長年にわたるご尽力に心より敬意  
と祝福を申し上げます。

省みますと、カンボジアでの恵まれない子ども達の  
学ぶ学校の建造と運営という ASAP の活動も、当初  
は孤軍奮闘の中で始まったと伺っております。

そうした状況の中、温厚で高邁な志を持つご夫妻の

献身的なご努力に、多くの方々が賛同し大きな輪が広  
がり、この様な素晴らしい成果に繋がったと思います。

当クラブのチャーターメンバーでもある長谷川パ  
スト会長ご夫妻の「奉仕の理想」の実践は、ロータリ  
アンの模範として私たちの心の中に永遠に輝き続け  
る事でしょう。

先ずは健康に留意され、引き続きお元気で活躍さ  
れますよう祈念を申し上げ、祝辞とさせていただきます。

## ASAP 創立 10 周年によせて

昭島ロータリークラブ 2014-15 年度会長 小山 善治

ASAP 創立 10 周年おめでとうございます。ここま  
での道のりは決して平坦ではなく、多くの困難や難題に  
遭遇し、熱意と愛情を持ってひとつひとつ丁寧に対応  
され、花が咲き、多くの果実が実り、この節目の年を  
お迎えになられたこととお慶び申し上げます。長谷川  
理事長はじめ ASAP のスタッフ皆さまがカンボジアの  
児童を想うお気持はわが子、わが孫をみつめる眼差し  
そのものと感じているところです。

東京昭島ロータリークラブと ASAP 長谷川理事長と  
の出会い、クラブがお世話している啓明学園インター  
アクトクラブが 2013 年の夏、地区大会のホスト校  
として大会運営をされたときに mother to mother の  
支援事業を知り金銭支援ではなく、おかあさん達に縫

製を教え、ファンシーグッズを縫い ASAP で商品として  
販売し、その対価を受け取る意義ある支援事業である  
と認識したところです。その流れのなかでクラブの補  
助金事業として 2015 年にソーラーパネル、LED 照明、  
電子オルガンを寄贈させていただき、翌年にはピアノ  
50 台、自転車 40 台を寄贈し、今年度は補助金を贈  
呈させていただきました。いずれもカンボジアの子  
ども達の健全育成に役立つ有意義な支援事業であると評  
価されました。

これからもカンボジア児童の輝く笑顔のためにさらに  
事業を積み重ねて行かれることと思いますが、長谷川理  
事長はじめ皆さまのご健勝と ASAP のますますのご発展  
を祈念しまして、お祝いとさせていただきます

## 人間愛に輝く 10 年の活動に乾杯を

いずみの会生活学校 千田 洋子

「カンボジアの子ども達に愛を！」2006 年、長谷川  
照代先生の熱の入った講演に、私達いずみの会の仲間  
たちはいたく感動。その 12 月、早速 8 名の会員が現  
地視察に同行し、貧しい人々の様子を知りました。  
帰国後、すぐに全会員の賛同を得て、井戸のない部落  
3 か所に井戸を寄贈。2011 年には、タットム小学校に  
水道式大型井戸の建設を支援。「いずみの会」の名前  
のプレートが付けられ完成された井戸の写真を見て、

皆で歓声と拍手で喜んだものです。その後、カンボジ  
ア国から感謝状と勲章が届けられ感激も一入でした。  
私たちの愛の募金のお届けも丁度 10 回、10 年になり  
ました。長谷川ご夫妻のこの国境を越えた”平和教育  
の実践”そのものに他なりません。

教育者として最高の生き方を示し下さり、私たち  
の人生にも小さな花を咲かせていただきました。心か  
ら感謝とお礼を申し上げます。

ASAP 10周年、誠にありがとうございます。心より敬意を表します。私は群馬で産婦人科医をしております。大沼陽子副理事長とは30年来の友人です。ご主人は私の大学の同級生であり、家族ぐるみで親しくさせていただいています。

ASAP の活動については以前より伺っており、2013年8月に末娘が小学校に遊具を設置する活動に加わり、家内も視察訪問に参加させていただきました。カンボジアの現状を知り僅かながらでも協力できればと思い、うちの診療所と老人介護施設に募金自販機を設置しました。善意に触れられることは

有り難いと思っています。そして改めて「縁」とは不思議で有り難く大切なものだと思えるようになりました。きっと、ASAP は理事長はじめ全ての関係者の皆様方が御縁を大切にされているから、確実に根付いて成果をあげているのだと理解しています。今回の10年は通過点だと皆様と同様思っています。

As Soon As Possible (できるだけ早く) も事実でしょう。しかし、少しずつできることから、しっかりと長く続けていくことがもっと大切だと確信し実践されている ASAP の活動が益々実を結び、多くの笑顔で溢れることを祈念いたします。

## 10年前に始まったご縁

観光ガイド タライ タラ-

私は、10年前に御縁があって支援校舎の一枚目トロク小学校落成式にいらっしゃった ASAP の皆様の観光ガイドをさせていただきました。そのきっかけで ASAP の理事長の長谷川先生をはじめ ASAP の皆様とお付き合いがはじまりました。とても素晴らしい縁です。この10年間ずっと ASAP の活動を見て参りました。ASAPのおかげでボロボロになっていつでも倒れる校舎だったり、人の家の床下などで勉強していた子供達がちゃんとした教室で勉強でき、学校が遠くて通えなかった子供たちも近くに学校ができて行けるようになりました。

先生の給料があまりにも安くて、教えることだけをするどころではなかった時から先生に支援金をして下さいました。それだけではなく生活が困っていて子供に文房具、洋服を買うお金さえない家族のため mother to mother 活動 とういうかかわることまで！ ASAP の活動のおかげで沢山のカンボジアの子供達が助かりました。語ると涙がこぼれるほどの観音様の慈悲みたいな ASAP に、言葉で絶対に言えるほどではないですけど私はカンボジア人、カンボジアの子供を代表して心から感謝を申し上げます。ASAP の皆様のご健康とご活躍をお祈りしております。

## 創立 10 周年おめでとうございます

啓明学園 国際教育センター主任 関根 真理

約5年前に啓明学園中学校の奉仕委員会が Mother to Mother の紐通しボランティアをさせて頂いたのがきっかけで、ASAP とのつながりが本校にとって無くてはならないものになりました。

2014年の夏にはカンボジアワークキャンプが始まり、高校生が ASAP の皆さんと一緒に現地へ行き、自分たちの目でカンボジアの現状を見て学ぶことが出来るようになりました。また、生徒たちと共にカンボジアの歴史を知ると共に、教育の大切さを知り、貧困とは何かについてより考えるようになりました。現地では、日本のように物が無い環境でも、明るい笑顔で楽しそうに過ごす子供たちと接し、本当の豊かさとは何かについても真剣に考えるようになりました。

Mother to Mother のもと、中高生が学園でのお弁当を入れる巾着、バッグなどの布製品を販売する様になりました。昨年のバザーでは、新商品のペット

ボトルカバーも販売しました。ボランティアで始めた活動ですが、今では販売するとはどういうことかも同時に学ばせて頂いています。さらに、スポーツを通して交流したいという男子生徒たちの願いからバスケットボールとゴールを ASAP の建てた中学校に寄贈しました。今回、中学生が楽しそうにバスケットボールをしている様子を見せていただきました。この夏、カンボジアワークキャンプに参加する生徒たちは、きっとバスケットボールも一緒にプレイすることが出来ると思います。

ASAP は毎年現地を訪れ、継続的に現地のニーズを確認し支援をしています。本校の生徒たちが、同じ多摩の地域でカンボジアの為に誠実に支援活動に参加できることを心より感謝しています。

これからも、ASAP の活動に積極的に関わらせて頂ければと思います。よろしくお祈りいたします。



## タットム・トロク小学校での美術授業

「Small Art School」(カンボジアの子ども達への無料の美術スクール)主宰 笠原 知子

ASAPさんは、条件悪く生まれたカンボジアの子ども達やその母親たちへ、きめ細かくいろいろな支援をなさっております。

私はその支援校であるタットム・トロクの二つの小学校で美術を教え始め5年になります。カンボジアは、凄惨なポルポト時代に多くの教師達が虐殺されてしまったため教科教育できる人材が育っており

ません。美術教育もその例外ではなく、子ども時代に心豊かな経験をさせてあげたくても指導できる教師がいないのが実情です。ASAPさんの子ども達への温かい思いは、「絵を描きたい」という子ども達の自然な知的好奇心を満足させ、文化の光の当たらない農村部の子ども達の瞳をより一層明るく輝かせております。

**笠原先生は「支援校の子ども達に絵を描く楽しさを経験させたい」と頼み込んだASAPの願いを、無償でお引き受け下さっております。今年の10月23日～28日銀座ギャラリー「巷房」にてスクールの生徒さんたちの絵の展覧会が催されます。ぜひ素晴らしい作品をご覧にお立ち寄り下さい。**

<http://smallartschool.wixsite.com/japanese/blank-15>

## Mother to Mother 活動に参加して

玉川学園幼稚部父母会長 小椋 はるか

「これは入園したら何枚必要ですか？」Mother to Mother の販売会場で品物を手に取るお母さん達のまなざしは真剣です。自分の手作りの品を準備したいけれども全ての品を作る時間はない...その様なお母さんが増えています。

玉川学園幼稚部父母会では2012年からMother to Mother 活動に参加し、新入園児と在園児向けに年3回販売を行っております。

Mother to Mother のカンボジアのお母さん達に、私達の幼稚園で使う「献金を入れるポケット付き礼

拝バック」等市販ではなかなか売っていないものを作ってもらい、それが非常に喜ばれており、毎回沢山のお母さん達が製品を買って下さいます。

恐らくカンボジアに行ったことのあるお母さんはいないと思いますし、手にした製品を作ってくれているカンボジアのお母さんに思いを巡らせるのもその時だけかもしれません。でも「カンボジアの子ども達に募金するだけではなく、お母さん同志お互い助け合う」という形にとっても意味があると感じております。

玉川学園幼稚部父母会はこれからも ASAPさんの活動に協力していきたいと思っています。

## 会のご発展を心より祈っております

光の子保育園園長 高杉 久美子

Mother to Mother 活動とは、小さな新聞記事がお付き合いの始まりでした。

丁度、園児への手作りプレゼントの事で悩んでいたこともあり、お願いしました。そして届いた品物は手縫いの丁寧に仕上げられたもの。お驚きました。

その後、ミシン縫いに代わり、生地の種類も増え、送られてくる品物にスタッフの皆様の努力の实りを感じました。

光の子では、入園式、クリスマスギフト、卒園式に、園で日常的に使用する布小物をお願いしており、沢山の貢献を頂き心より感謝しています。

始まりは職員の負担軽減(\*職員の皆様が作っていらっしゃる)が目的でしたが、今はカンボジアの子ども達、お母さん達への思いが育っております。また、カンボジアの方たちが日本に見えた時に理事長先生達皆様にご訪問頂いたことも思い出となっています。会のご発展を心より祈っております。

多摩川幼稚園理事長長谷川安年先生が NPO「アジアの子ども達の就学を支援する会」を立ち上げ、カンボジアに学校を建設し、早や 10 年の年月が経ち、すでに大きなご功績を残していらっしゃるのお話を聞き、感銘しているところでございます。10 年の間には生活環境は勿論、文化的な意識の違いや、裁縫技術の習得等々、様々な困難が立ちはだかる中、常にアジアの子供たちの支援の為に高みに向かってご尽力されていらしたお姿に心から敬意と尊敬を申し上げます

当園も微力ながら支援をさせて頂いておりますが、作品展示会の際に袋物を販売しています。保護者の皆さまからも色とりどりで様々な模様、しかも

カンボジアのお母さんの心のこもった手作り品ということで、大人気です。教職員も ASAP の趣旨に共感し、カンボジアのお母さん達の気持ちが伝わり、販売するという気持ちを超えて楽しみながら、支援の輪を広げようとする事で、更に作品展示会も盛り上がっています。

カンボジアマザーと日本マザーが国を超え、手と手をつなぎ、心かよわせていることに自分自身も幸せを感じるところでございます。

この 10 周年を期に、これからも次の目標に向かって ASAP の更なる支援の輪が広がりますよう心からお祈り申し上げます。

## ASAP の活動を陰ながら応援しています

ASAP サポーター 多田 誠

私と大沼副理事長との出会いは一昨年 KS アカデミー（川崎市と専修大学が運営している社会的企業家養成講座）で受講生仲間として席を同じくさせて頂いた時でした。大沼副理事長は ASAP をマネジメント面でさらに良いものにしたいと広報・情報戦略、資金調達、事例研究などの講座に参加しスキルアップに励んでいらっしゃいました。当時 ASAP の事業に対する熱い思いを語る大沼副理事長には感銘を受

けました。ソーシャルビジネス・コーディネータである私はそんな大沼副理事長を支援するため昨年 2 名のプロボノ（専門スキルのボランティア）をご紹介し、新入園児向けパンフレットのデザインやネット販売ホームページのリニューアルのお手伝いをさせて頂きました。今後も見えないところで努力なさっている大沼副理事長ために何かしらの力になっていければと思っています。

## ASAP10 周年、おめでとうございます

ASAP サポーター 渡邊 新太

私は 2011 年 5 月から約 1 年間シェムリアップに滞在し、村の様子や、建築中だったコールタメイ小学校の状況を報告させていただきました。当時はクメール語も分からず、現地の人としっかり意志疎通できていたとは言えませんが、それでも人々の温かさに触れ、私も一緒に自然の中でゆったり生活したいと思ったこと、よく覚えています。

日本とカンボジアは、ものの考え方、物質面など大きな違いがあります。日本の「当たり前」が通じず、予

想を遥かに越える驚愕の結末になることも珍らしくありませんが、現地スタッフがいない ASAP が村の人たちをこまめに気遣い、現地の環境に合わせ、自立目指して支援されていることにはとても感心させられます。

そんな ASAP が多くの会員の方々、そして事務スタッフの方の陰の努力に支えられ活動につながっていること、私もぜひカンボジアの人たちに伝えて行きたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

私がカンボジアの子どもたちのことを知ったのは、ある会で照代先生のお話を伺った時のことです。行ってみたいという思いが募り支援ツアーに参加しました。想像もできなかった村の様子は今も忘れられません。あの時はホテルのロビーで子どもたちに渡すノートや鉛筆の仕分もお手伝いしました。気づけば4度も訪問していました。

ASAP のカンボジアでの様子を知っておりますので、この10年間本当に苦難の連続だったことと思います。でも、訪問の度に子どもたち、先生達と心が通じ合う事も実感いたしました。

## 「ちょっと…」がもう10年！

ASAP ボランティア 鶴谷 和子

長年多摩川幼稚園のピアノ教室の講師として働いていたのを退職し、偶然理事長ご夫妻にお会いして、「カンボジアの支援を始めたのだけれど事務的な事をちょっと手伝ってもらえないか」とおっしゃいましたので、時間的にも「ちょっとなら」と思いお引き受けしたのが始まりでした。お引き受けしたものの、事務経験もない私が議事録をお願いしますなどと言われ、四苦八苦でもたもたしておりました。

しばらくたった時のことです。理事長のお嬢様である陽子さんが参加して下さるようになりました。陽子さんはとてもアイデアマンでしたので「Mother to Mother」をやりたいと相談を受けました。当時あ

ま今私は友人と一緒に Mother to Mother 活動を日本でのボランティアとしてお手伝いしていますが、今でこそかなり製品の出来栄も安定しましたが、始めた当初は何度も「至急手伝って！」という SOS を何度も受けたものでした。

大沼理事、スタッフの皆さんの団結力が ASAP の魅力だと思います。私達ボランティアもカンボジアの子どもたちの為にほんの少しではありますが役に立っていることが励みになります。今後も ASAP の一員として参加協力できたらと思っています。

まり賛成してくれる気配がなかったので私は「失敗しても何も失う事はないので手伝うから取り合えずやってみましょうよ」と答えたことを覚えています。

360度のアンテナと大変な努力により、協力して下さる方が増え、活動が広がっていったのには驚くばかりでした。陽子さんとは「こんなに大きくなるとは思ってもいなかったね」と時々二人で話します。

現在は主に Mother 活動のお手伝いをさせて頂いておりますが、色々思いだせないほどの失敗の中、今でも毎日がてんでこ舞いで進んでおります。

これからの更なるご発展をお祈りし、微力ながらお手伝いさせていただきます。

## 私のライフワーク

ASAP スタッフ 上田 恵子

4年前「カンボジアに行かない？」とお誘いを受けて支援活動に参加する様になり、気づけば訪問11回！色々な経験をし、元気を貰い、自分を振り返って学ぶこともたくさんありました。

現地へ行って初めて知った ASAP の活動。毎回支援校を回り、職員との話し合い。時には ASAP の厳しい指摘に、まるで叱られた子供のような表情を見せる校長先生。でも ASAP を信じて努力して下さる姿に胸が熱くなります。

『継続は力なり』という言葉通り、ASAP の地道な活動は実を結び、学校を取り巻く村中の人々と強い絆で結ばれています。小学校にさえ通わせることが困難

だった人々が今では中学校、高等学校への進学を親も子も望むようになっていきます。『教育の大切さ』を知り、村全体で努力していく姿に ASAP の活動の成果がはっきりと見て取れ、村人たちの笑顔と自信を生み出しています。訪問するたびに、みんなが輝きを増して驚かされます。

私も同じですが、行ってみないと知り得ないことがたくさんあります。カンボジアのみんなは ASAP や皆さんの訪問をを心待ちにしています。これからもその期待に応え、絆を深め、みんなの力に少しでもなれるよう、多くの人たちが参加をされ、この先もずっと ASAP の活動が続くことを願っています。

今から6年ほど前、民家の軒下に黒板一つをぶら下げたコールタメイ小学校の視察に同行いたしました。校長先生や村長さんとの話し合いが始まると子供達や村の人達が大量集まってきて話し合いを熱心に聞いています。教育への関心の高さを感じました。

「何年待っても貴方たちに学校を建ててもらいたい」との校長先生の言葉に、今まで期待外れの話が多々あったのだらうと推察しました。私達を信頼している！この現状を見て理事長はじめ ASAP のスタッフ全員がこの村に学校を建てねばと心に誓いました。

帰国後私は心に火が付いたように友人知人にコールタメイの現状を伝え支援をお願いしました。折しも東日本大震災の年で支援のお願いがとても心苦しかったのを思い出します。翌年、願いが叶って郡内で最も貧しいコールタメイ村に小学校が建ったのです。

あれから5年、貧しい村も少しずつ前に進んでいます。ゴミだらけの村や学校も、ゴミを捨てない、掃除をする、などを子供達に徹底させ今では村全体がきれいになってきました。又、教育熱心な校長先生は創意工夫も素晴らしいです。その1例ですが井戸の高低差を利用した水洗？トイレです。私達の滞在時間が長くなってもトイレの心配をしなくて済むような配慮なのです。ASAP の継続支援が堅い信頼関係を築いています。

「就学を支援する会」で始まった ASAP の活動が Mother to Mother でお母さんたちの自立を支援し、村の生活さえも変えつつあります。コールタメイ村が貧困から脱出するのも、そう遠くはないと思うのです。

皆様 カンボジア観光に行かれましたら1日を割いて奥地の村を訪問して頂けたら嬉しいのです。きっと目から鱗のたくさんのことを学べます。あなたの生き方が変わるかもしれません。

## カンボジアでの支援について

ASAP 副理事長 勝西 光治

最初のトロク小学校の寄贈から、早や10年が経ち、あの頃の5、6年生は今ではもう社会人です！カンボジアも内戦の傷跡から、徐々に落ち着きを取り戻したように感じます。

ASAP も、皆様の支えがあってここまで歩んできたことができました。あらためて御礼を申し上げます。

最初は疑問がいっぱいでした。国は道路や橋等のインフラ整備を重視し、ONG も箱物ばかり。なぜ国力の基盤となる教育に支援を要請しないのだろうか？教育が邪魔になるかと思っているのか？今でもこれらの疑問は解決されず、現状でも満足な教育を受けることができない子供たちがいっぱいいます。

学校や教室がないから教育が受けられない。給料が安く教師がすぐやめる。子供が子供をアルバイトで教えている、教科書がない。学用品もない。制服（といっても質素なもの）がないので学校にいけない。トイレがない。水もない。雨水のほうが井戸よりきれい等、日本では考えられない状況下で『教育の環境を整

え、生活の環境を改善する』為にかンボジアとの距離と文化の違いを乗り越え、目の前にある問題一つ一つに対応策を考え、状況を具体的に変えるために実行あるのみ。といった10年間でした。

カンボジアの人達は真面目で従順ですが、日本人からみるとアバウトで「だいたい」で良い感じです。確かにあの暑い中では、のんびりでないと生きてゆけないでしょう。農村地区というのものもあるのかも知れません。

親たちはほとんど字が読めず、情報もほとんど必要がなかったのでしょうか。日本でいうと戦国時代が終わって、江戸時代に入ったところと同じなのかもしれません。ところが、時（世界）はすごいスピードで進んでいます。若者にはスマホが必需品となり、情報が氾濫している社会となっています。だからこそ、基本的な教育が大変重要です。

カンボジア社会のすさまじい変貌のはざま、私達が子ども達に出来ることは何か。よく考え今後努力していかななくては、と考えております。

私はASAPの設立当初から通算14回(たぶん)カンボジア視察訪問に同行して参りました。

同じ今を生きる人間なのに、カンボジアに生まれただけで、読み書きが出来ない多くの国民、学校や先生が足りず子どもは学ぶことも出来ない、電気も水道もガスも無い等、日本と余りに違う現実がありました。

この田舎の問題山積みの学校をどうしたらいいのだろうか? NPO法人を設立して果たして会員・寄付金は集まるのだろうか? 心配を抱えてのスタートでありました。

しかし、理事長・幼稚園の関係者を中心に多くの皆様のお陰で、学校建設、先生方への給料支援・新入生へ制服支援・井戸の支援、先生方へ住居支援、遠方の子供達に自転車支援、その他に美術・音楽・体育等々色々な支援を行うことができ、10年たった今支援の成果を実感しております。

「聞かれたこと以外自分から話さない」カンボジアの人達ですが、卒業生が教員の資格を取って母校の先生になった、縫物の収入でお母さんが子供を高校に

行かせる事が出来た、就学率が確実に向上した支援校等、毎回訪問するたびに新しいニュースがありました。中でも私が一番感動した出来事、それは2011年3月に東日本大震災の時の事です。お金も無いカンボジアの村のお母さん達が40ドルの義捐金を送ってくれたのです。まさか!あの村のあの貧しいお母さん達が!!と思いました。その気持ちが非常に嬉しく、学校や村の人達と築きあげてきた信頼関係を実感した出来事でありました。

又、副理事長のアイデアでクラウドファンディングに挑戦し、その結果全く存じ上げない方達、会社からの寄付金が集まり、多くの人にカンボジアの支援活動を認められ、そのお陰で予定以上の速さで学校建築が進む事が出来たのも感慨深い出来事でした。

今、高等学校建設を始める事に成りました。個人の力は微力でも、仲間が集まれば大きな事が出来ます。今まで支援して頂いた方々に感謝して、これからも身を引き締めて「心の通う」支援活動を目指し協力していきたいと思っております。

## カンボジ教育支援が始まったころ

ASAPとして本格的に支援を進めて10年となる今日まで、様々な方々の協力がありました。この節目に私が関わり始めた当時の思い出を少しご紹介します。

長谷川安年先生、照代先生ご夫妻が最初に観光で訪れたカンボジアは1991年の内戦終了後10年ほどしか経っていない正に戦後の景色。カンボジア国内は老人と女、子供だけの住民。その光景を見たご夫妻は子供をきちんと教育し、自国の平和を作っていく事の出来るカンボジア人を育てる学校を作らねばならないと思われたそうです。当時お話しをうかがい、私の心の中にも何かできることはないのかとの思いが湧いてきました。

ご友人の池田さん(故人)のご尽力でカンボジア日本大使の協力も取り付け最初のトロク小学校建設への挑戦が始まったそうです。

完成落成式の際(2006年3月)私も初めてカンボジア訪問致しました。訪問と言っても私どもは観光も兼ねての参加でした。

空港に降り立って税関を抜けるだけでも驚きの連続でした。通関で働く税関職員でさえつたない英語で

「これを買わないか」と勧めお金も得ようとしてくるのです。空港周辺でも信号機はほとんどなく小さなオートバイやボロボロ車が往来していました。道の脇に雨水対策でほられた溝があるだけの道路。前を行く車の土埃であつという間にも人も車も土埃だらけです。現金を得る為に大人は足の無い子供に物乞いや1枚1ドル(大金)のカンボジア布を売らせ、早朝の病院前には血液を売りに来る人々の長蛇の列…。今も地域によってはあまり変わらない出来事かもしれません。背中に汗が流れる気がしました。

政治の安定はまだまだで旧軍人が政治家になっていたと想像され、アンコールワットも整備が始まったばかりで回りの堀とそれに続く橋も工事が始まっていませんでした。

この様な中、私財を投入しての最初の小学校建築が現実化されていったのです。

10年たった今、整備されてきた観光地と生活地域の学校近くとの差は歴然です。10数年かけてもまだまだ教育の道は始まったばかり。

この記念誌を皆さんにご覧に頂き、ASAPに力を貸して下さる人々が増えることを切に願っております。



# 10年の歩み

2000. 長谷川安年（現 ASAP 理事長）が、カンボジアに観光で訪問。支援の必要性を痛感する
- 2005.10  
2005.12 カンボジア駐日プー・ソティレア大使・長谷川安年・池田五郎氏がカンボジア視察  
建築確認の為長谷川安年・八王子白百合幼稚園故高橋園長訪問
- 2006.3 第1回訪問（ツアー実施 19名）  
カンボジアシエムリアップ州ルムチェック村に  
**理事長トログ小学校校舎寄贈（1棟目・5教室）**  
「あきる野多摩川学園カンボジア校を育てる会」発足
- 2006.7 第2回訪問（ツアー実施 5名）  
継続した支援に向けて調査を開始
- 2006.12 第3回訪問（ツアー実施 20名）  
**教員に月々30ドルの教育支援金 及び  
教材、教具の購入支援を開始**
- 2007.2 **NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」  
Asia School Attendance Partnership (ASAP) として認証される**
- 2007.6 第4回訪問（理事長・勝西）
- 2007.9 第5回訪問（ツアー実施 5名）  
**タットム校舎寄贈（2棟目・3教室）**
- 2007.12 第6回訪問（副理事長池田五郎氏）
- 2007.12 第7回訪問（長谷川・大沼他2名）  
日本語学校への通学費用補助開始（月々50ドル）
- 2008.2 第8回訪問  
NHK 文化センター主催  
池田蘭径先生と行くカンボジアの旅」の皆様16名
- 2008.7 第9回訪問（ツアー実施 17名）  
新一年生への制服支給・6年生への卒業アルバムプレゼント開始  
**Mother to Mother 活動スタート**  
いずみの会より井戸支援開始  
コン・サンロートさんによる現地事務局開設
- 2009.2 第10回訪問（長谷川・大沼）  
日本語学校通学費用補助打ち切り  
未就学児童ゼロとなる  
中学校に教科書寄贈。ヒ素問題を受け全寄贈井戸の水質検査実施



2009.8

第11回訪問（ツアー実施 7名）

2010.8

第12回訪問（長谷川・池田含5名）  
アンプール保健所にポンプ寄贈

2011.2

第13回訪問（ツアー実施 13名）  
（大学生による支援ツアー開始）

**ワットタメイ小学校校舎寄贈(3棟目・4教室)**

東日本大震災 カンボジアのお母さん達から義捐金届く  
**朝日新聞に Mother to Mother の記事が掲載される**



2011.8

第14回訪問（ツアー実施 10名）

**タットム小学校に新校舎寄贈(4棟目・3教室)**

国からのお給料が上がった為、教育支援金を月々20ドルに変更

教具、教材購入支援を生徒1名につき年2ドルの児童支援金として学校に委託する形に変更

NPO 年会費改定

スーパー井戸寄贈（いずみの会）

2012.2

副理事長池田五郎氏逝去



2012.2

第15回訪問（ツアー実施 14名）

2012.8

第16回訪問（ツアー実施 26名）

**コールタメイ小学校開校(5棟目・4教室)**

教員宿舎寄贈（長谷川照代喜寿記念寄贈）ドッジボール大会・音楽遊び実施

（株）ラッシュジャパンより Mother to Mother 活動に 140万円助成



2013.1

第17回訪問（ツアー実施7名）

トロク小学校の屋根大修理

Small art school 笠原知子先生による美術授業開始

2013.8

第18回訪問（ツアー実施19名）

コールタメイ小学校校庭にタイヤ遊具制作・ドラゴンフルーツ100本植える

絶対に割れないボール寄贈

タラさん講師による教員への日本語習得プロジェクト発足

秋川ロータリークラブより 50万円の寄付

明星大学支援ツアー初参加



2014.1

19回訪問（ツアー2回実施 計25名）

**キロタチュム小学校校舎寄贈(6棟目・5教室)**

トロピアンプレイ中学校開校に向け（株）ラッシュジャパンより 400万寄付

Mother to Mother 作業所設立に向けてタットム小隣接地購入（40万）

2014.5

20回訪問（大沼・上田）

2014.8

21回訪問 (ツアー実施 34名)  
トロピアンブレイ中学校開校(7棟目・5教室)  
コールタメイ小学校に図書室増築  
(秋川ロータリークラブより 第8棟目)  
かめのり賞受賞(副賞として50万円)  
\*ラッシュジャパン\*啓明学園高等部生初参加



2014.9

ヌウ校長 サレイ先生 通訳タラさん  
日本へ招待(1~3か月間)



2015.2

22回訪問 (ツアー実施 19名)  
コールタメイ小学校にソーラー寄贈  
(昭島ロータリークラブより)  
Panasonic より 108 台のソーラーランタン寄付  
寄付金付き自動販売機2台初設置(山育会)  
Mother to Mother 活動作業所建築事業に  
(株)ラッシュジャパンより作業所建築費用 200 万円助成  
独立行政法人国際協力機構(JICA)より 100 万円助成  
庭野平和財団より 40 万円の助成 を受ける



2015.4

第23回訪問 (大沼・上田作業所建築確認)

2015.8

第24回訪問 (ツアー実施 18名)  
Mother to Mother 作業所完成(9棟目)  
中学校にバスケットボール導入



2016.2

第25回訪問 (ツアー実施 10名)  
中古自転車 40台 ピアニカ50台寄贈(昭島ロータリークラブより)  
クラウドファンディングで200万円の目標達成  
国よりのお給料がアップしたことにより、  
教育支援金を年100ドルに変更

2016.8

第26回訪問 (ツアー実施 27名)  
ワットルン小学校校舎完成(10棟目・5教室)



2017.2



第27回訪問 (理事長含む4名)  
トロク・タットム小学校教員への  
教育支援金終了  
トロピアンブレイ高等学校建築着工へ



# 各支援校の様子

## トロク小学校(2006.3 寄贈)



トロク小が見れます

理事長長谷川安年が個人で寄贈し ASAP 発足のきっかけとなった学校です。

今振り返ってみると、習慣も規則もわからない私達と、ポルポト政権時代の影響からか、聞かれたこと以外のことは口をつぐむ先生達とはなかなか意思疎通が取れず、職員室はゴミなのか書類なのかさえも区別つかないようなぐちゃぐちゃの状態、在籍数、未入学者数、進学者数さえ把握できていない校長先生。雨漏りで水たまりだらけの教室、教室内も校庭もゴミが散乱、ゴミ置き場のような汚いトイレ…「問題は山積みだけれども何をどうしたらいいのか!!」という状況からのスタートでした。

年2回の訪問を実施する中で、「先生確保のための教師への支援金」「教材、教具の支援」、「新一年生への制服と文具支援」という現在の方向性が定まり、継続した支援活動が始まりました。

本当に力になっているのだろうか、不安に思う時期もありましたが、10年たった今「何か問題ありますか、という質問に「特にない」という答えが聞けるようになりました。こんな日が来るとは！安定し始めた様子から、今年度より先生へのお給料補助を終了致しました。



他団体が建てたトロク小の本校舎。雨漏りがひどい状態というのに寄贈団体は何もせず…。見て見ぬふりは出来ないと、2014年2月 校舎の屋根の修理を150万円かけて行いました。



トロク小の先生達手作りの「アンコールワット刺繍」をプレゼントされ ASAP 一同感激。

# タットム小学校(2007.9 及び 2011.8 寄贈)



道路の左手に  
学校があります

2007年トロク小学校の分校であったタットム小学校に校舎を寄贈しました。

その後2011年にもう一校舎寄贈し、分校から独立した小学校となりました。

支援当初のマオ校長は「はい、はい」と返事だけは調子が良かったのですが、実行力はゼロ…。私達に無力感が漂いましたが、数年後又ウ先生が校長となってからは、私たちの思いをすぐに理解し行動に示してくれ、学校が大きく変わっていきました。マオ先生との違いにびっくり。この件で私たちは『カンボジアにおいて学校がどうなるかは校長次第だ』という事を学びました。今ではタットム校は郡のトップ校になり表彰され、地域のモデル校となっています。又ウ先生はその実力を認められ、地区の校長の「長」になって地区を引っ張って行く立場になっています。

「いつか支援校がモデル校になり、地区にその影響が広がったらいいね」

と話していたことが、10年たった今まさに現実となっています。

地道に続けた支援がこんな形で花を咲かせています！

郡一番の学校に！



この校舎はひどい手抜き工事をされたうえ、施工会社は雲隠れ！この苦い経験を経て、KHJ会社に工事をお願いすることになりました。



シロアリと穴だらけの屋根のひどい旧校舎でした



教室内はいつも整然ときれいになっています



旧校舎取り壊しは、子どもたちも一生懸命手伝いました。日本なら「危ないから近寄るな！」でしょうね…。

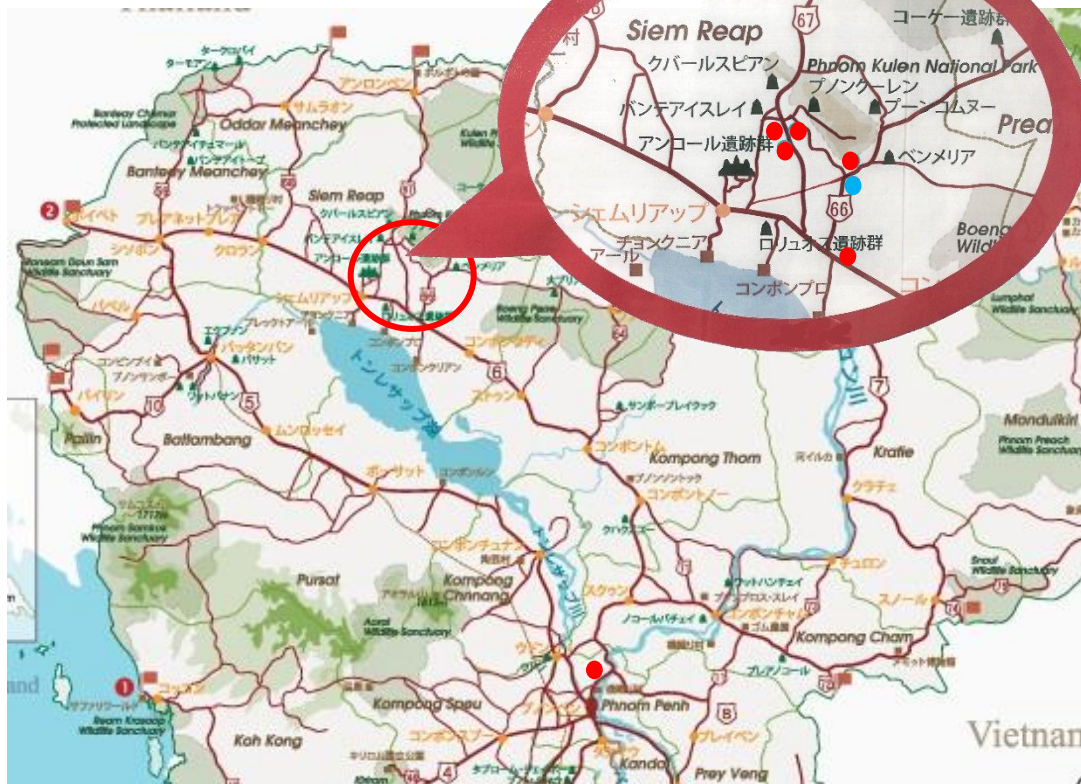
# ワットタメイ小学校(2011.2 寄贈)

2011年2月に完成した第3施設目の校舎です。  
この学校は首都プノンペン郊外にあるため、毎回訪問はできませんが、KHJ 会社が責任を持って見守ってくれています。  
今回(2017年1月)久しぶりに訪問して参りました。先生達とは久しぶりの再会でした。



1年生の国語音読授業風景

## カンボジアの地図から 見る支援地区



● 小学校

● 中学校及び高校予定地

# 多摩川コールタメイ小学校（2012.8 開校）



道路の右手に  
学校があります

民家の床下が学校だったコールタメイ村に『多摩川コールタメイ小学校』を寄贈しました。

僻地だった為職員宿舎も建て（理事長夫妻記念寄付）2013年には校庭にタイヤ遊具、2014年に秋川ロータリークラブより図書室が、2015年には昭島ロータリークラブよりソーラーパネルが寄贈されました。荒野の中に誕生した小さな小学校は今、広い校庭でスポーツ等を楽しむ子ども達の姿があり、（カンボジアにおいて広い校庭とソーラーがあるというのはとっても珍しいです）子どもたちの背中にはMother to Mother活動で作られたリュックが揺れて、ドラゴンフルーツの収穫期には子ども達が甘い果物に喉を潤す…夢が形となった、とても素敵な小学校になっています。



民家の床下が教室でした



木陰でミーティングでした



こんな荒野に…



ソーラやタイヤ遊具が整った素敵な学校になりました



小さな小学校が誕生しました



理事長夫妻が教員確保の為に寄贈した教員宿舎



学校誕生は現地の新聞にも掲載されました

そんなの無理という声の中理事長が強引に実行したドラゴンフルーツ事業。今しっかりと甘い実がなっています。

## キクタチュム小学校(2014.1 寄贈)

2014年3月に完成した第6棟目の校舎です。

この学校では雨季でも校舎間の行き来が楽にできる様にと、カンボジアではあまり見かけない、『校舎と校舎をつなぐ渡り廊下』を作りました。乾季には、この部分にベンチを置き子どもたちが寛いでいます。

この地区は地下水があまり出ないため、水問題を抱えています。この問題ばかりは私達だけではなかなか解決できません。(赤十字やワールドビジョン等が支援しても解決に至っていません)



以前の古い教室



新しい教室(左)と渡り廊下(奥)

## トロピアンプレイ中学校(2014.8 開校)

多摩川コールタメイ小学校の卒業生が進学する中学校がない、という要請を受けて2014年8月に開校した中学校です。(ラッシュジャパンからの支援) 家から通える所に中学校ができたことで中学進学者はかなり増え、今年初めての卒業生が誕生します。ところが高校は21キロ先にしかありません。高校を建ててもらえないかと相談を受け、今年の11月の新学期開校に向けて工事に着工しました。



## ワットルン小学校(2016.8 寄贈)

5 教室 700 万円という費用が大幅に足りなくて、初めて『クラウドファンディング』に挑戦し、奇跡的に目標額の 200 万円を達成して建築にこぎつけた学校です。2016 年 8 月に寄贈し半年後の今回訪問したところ、もう机の中や床、校庭にはゴミ！ゴミ！黒板消しも床の上に…。「カンボジアの国は朝掃除をするから放課後は汚い」と先生は言いますが、**いつも汚いのはわかっています**。「朝教室がきれいというのは子どもにとって良い事」という事を伝え、ぜひ放課後の掃除を実践してほしいと伝えました。

**学校のごみ問題は、タットムやトロク小学校でもあった問題です。ワットルンでも頑張ります！**



8 月に完成した校舎



チョークの粉と黒板消しが床に、庭にはごみが…ASAP は見逃しません！

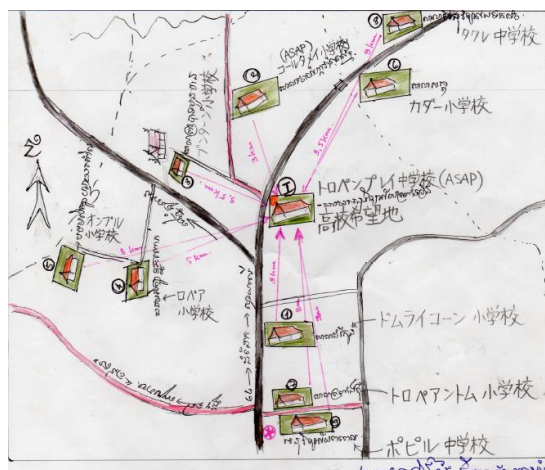
## トロピアンプレイ高校 (2017.11 開校予定)

本誌 P3 に詳しくご報告致しましたが、2 年前に寄贈した中学校卒業生が進学する高校の寄贈を決定し 11 月開校を目指して工事に着工しました。

昨年 5 教室のワットルン小学校を寄贈したばかりなので、総建築費用 650~700 万円は予算的にはギリギリですが、どうにか卒業生が誕生する今年中にと考え工事着工に踏み切りました。

**高校建築プロジェクトにお力を貸してください！**

**\* 同封の振込用紙をご利用下さい**



校長先生から渡された地図 (通学対象地区)

# 取り組んで来た様々な活動

## 先生との話し合い及び先生確保へのお給料補助支援



訪問の度に先生達とミーティングを重ねて問題提示と解決を図ってきました。教職に専念できるように始めたお給料補助で、「学校に先生がいる」という当たり前のことが実施されるようになりました。その甲斐あってか、卒業生が先生になって戻ってくるというサイクルも生まれ先生不足は解消。国からのお給料も上がったこともあり、タットム、トロク小ではお給料補助は今年で終了となりました。



卒業生が先生になって戻ってきました

## 制服支援

制服が購入できない最貧困家庭でも安心して学校に通う様に、1年生に制服支給を継続中



## 教材・教具の支援

当初は、訪問時に市場で必要な教具を購入していましたが、学校との信頼関係が生まれた現在は、生徒一人年2ドルを教育支援金として委託する形式になりました。出納帳に記録を付けてもらっています。



市場で買い付けていた当時



年月日	摘要	収入金額	支払金額	差引残高
	現金(入金)	334		334
	120 円		30	304
	20 円		20	284
	5 円		5	279
	10 円		10	269
	10 円		10	259
	10 円		10	249
	10 円		10	239
	10 円		10	229
	10 円		10	219
	10 円		10	209
	10 円		10	199
	10 円		10	189
	10 円		10	179
	10 円		10	169
	10 円		10	159
	10 円		10	149
	10 円		10	139
	10 円		10	129
	10 円		10	119
	10 円		10	109
	10 円		10	99
	10 円		10	89
	10 円		10	79
	10 円		10	69
	10 円		10	59
	10 円		10	49
	10 円		10	39
	10 円		10	29
	10 円		10	19
	10 円		10	9
	10 円		10	-1

現在は校長に委託して出納帳に記録

## 井戸の支援

必要に応じて井戸も寄贈。いずみの会・府中オモチャの会からは大型井戸が寄贈され子ども達の衛生教育に役立っています



## 図書室や本の支援

書籍支援を受けるには基準に合った部屋が必要の為、「図書室」を寄贈。寄付で本も寄贈しています



秋川ロータリークラブより



ラッシュユ社員・府中オモチャの会の皆様から本の寄贈



## 絵画指導 2012年～

絵画指導が一切ないカンボジアの小学校。カンボジア在住で[Small Art School]を開校する笠原知子先生が交通費と通訳費用のみで指導をお引き受け頂き、支援校で継続した指導が行われています。



## 学校を綺麗に

「どうしてゴミを拾わないの？」という問いに「綺麗にしてもすぐに汚れるから」という校長の言葉に唖然とした支援当初。「**教育は学校から家庭に広がる**」繰り返し伝えてきた結果、現在ではどの学校にもゴミ箱が置かれ、「家庭でもゴミ箱を置き始めた」と聞きました。通訳さんには「**こんな奥地の村でゴミ箱が置かれるなんて、とても凄いことです！！**」と驚かれました。



ゴミ 10 個とアメ交換なんて言う事も



大型井戸から水を引き、生徒達による朝の水汲み作業（30分）をなくすことができました。

## 卒業アルバム授与

卒業式も何もないカンボジアの小学校。それならと、中退者を減らす為に、卒業生に卒業アルバムプレゼントを2008年から毎年続けています



## 「小学校に運動を」プロジェクト

カンボジアの小学校では体育の授業が全くないと知って、スポーツを学校に紹介し続けてきました。導入した学校で子ども達が楽しそうに遊んでいる様子を見ると、本当に嬉しくなります。いつか大グラウンドを作りたい…こんな大きな夢も持っています！

### ■ タイヤとび遊具制作 2013年

校舎以外何も無い学校に子ども達が集まる様にとタイヤ遊具を作りました。思った以上に大変な作業でしたが、今では子どもの憩いの場(?)になっています



↑  
楽しく遊ぶ子どもたちの様子

### ■ ドッジボール 2011年～

初めはただのボールの追いかっこになってしまったドッジボール。今では休み時間に子ども達が盛んに遊び、毎年夏にはドッジボール学校対抗試合を開いています。



バスケットボールの様子

### ■ バスケットボール 2015年～

啓明学園の高校生達の力を借りて実現。今回の訪問で生徒達が遊ぶのを目撃。しっかりと根付いていて、良かった！



## 「学校に音楽を」プロジェクト

支援校の先生誰一人音楽の勉強を受けたことがなく、楽譜も読めません。

先生や子ども達に音楽を楽しむ機会を取り入れてきました。2016年3月、「音楽を勉強するには楽器が無ければ」と昭島ロータリークラブから50台のピアノを寄贈頂きました。そして…今回の訪問で子供たちがウェルカム演奏を！耳で聞いたメロディーを弾いているのです。感激で胸が一杯になりました。「楽譜が読める先生を育てカンボジアの学校に音楽を広げたい！」こんな思いが募っています。



学校初のフォークダンス。並ぶのさえ大変でした。



明星大学生が木琴指導を（2014.3）



ぜひ聞いて下さい⇒



## 国際交流プロジェクト

日本の学生に途上国の現状を見てもらい、支援校の子どもたちには外国人と交流し広い視野を持って欲しい、そんな思いから、2011年から日本の大学生との交流を始めました。2014年からは啓明学園の高校生がワークキャンプとして参加し、啓明学園内で販売する小物をカンボジアのお母さん達に縫ってもらう事も実現しました。



## 学校に明かりを

2014年11月各支援校にポータブルソーラーランタン計108台（Panasonicより）、2015年2月コールタメイ小学校にソーラーパネル（昭島ロータリークラブ）を寄贈しました。



車のバッテリーでの電球ひとつのころ  
手元を照らすと黒板が見えませんでした。



こんなに明るくなって黒板もはっきり

## 自転車寄贈

2016年2月、支援5校の貧困家庭の子ども達に計40台の中古自転車を寄贈しました。  
（昭島ロータリークラブより）



## 新1年生へ通学リュック配布事業（寄付金付自動販売機設置事業）

「ビニールのスーパーの袋が通学カバン」という子どもも少なくありません。日本国内に設置して頂いている「寄付金付自動販売機」から販売1本につき10～20円の寄付金を頂き、Mother to Motherのお母さん達に通学リュックを縫ってもらい、子ども達に支給する事業が軌道に乗り始めました。

「洗える、丈夫、直せる」と喜ばれています。



# 苦勞したプロジェクト

## No1. 「日本語を話せる者育成」プロジェクト

英語も全くわからない先生達との会話はいつも通訳さんを通してです。「日本人が支援しているのだから日本語を話せる様になってほしい」と、2007年日本語学校への通学費用援助を開始しました。しかし効果が全くでないことから2009年援助を打ち切りプロジェクトは挫折しました。

それから5年後の2013年、Mother to Mother 活動を進めるにあたって、「荷物を発送した」「〇〇を送ってほしい」等といった連絡さえも通訳さんを介さなければならない不便を痛感し、今度は通訳のタラさんによる日本語の授業を開始しました。生徒は6名の先生。一年間の授業の後成績の良かった「サレイ先生」を日本に呼び3か月間日本語をじっくり学んでもらいました。その成果で、今、支援地区には日本語で必要最低限の連絡がとれるサレイ先生がいます。これは本当に助かります。そして学校では日本語教室も開かれ、学校では「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」と日本語のあいさつが響きます。滞在中は泣きたいほど大変でしたが、沢山の方が支えて下さりプロジェクトを達成しました。ASAPの底力を褒めたいです！学校とASAPに特別な信頼感が生まれました



## No2. クラウドファンディング

ワットルン小学校校舎建築資金不足を補う為にクラウドファンディング(インターネットで多くの人に支援を呼びかける手段)にも挑戦しましたが、始めてすぐに「これは無謀な挑戦だった」と気づき、食事も喉に通らなくなるほど苦しい道のりでした。

目標額200万円を達成できたのは、寄付や、情報を多方面に広めて一緒に応援してくれた沢山の方たちの存在でした。苦勞と同じくらい、いえ、それ以上に感じた「皆様への感謝」でした。その恩を返すには、NPOの活動をしっかり行う事以外はないと、大きなエネルギー源になっています。

## Mother to Mother 活動の 基盤を固めた「朝日新聞」掲載

2011年5月5日朝日新聞家庭欄にMother to Mother 活動の事が大きく掲載されました。この記事が活動への信頼性を高め活動を大きく前進させることができました。全国から布の寄付が大量に届き大騒動になりました。



# Mother to Mother 活動

最貧困家庭に収入があれば子どもを学校に行かせたいと願うカンボジアのお母さんと、入園準備品に頭を悩ませる日本のお母さん、「双方が助け合ったらどちらも助かる！」と小さなコップ袋づくりから始めた Mother to Mother 活動です。

「なんでそうなるの!？」と泣きたくくなるような出来事を何度も乗り越え7年。カンボジアのお母さん達も、何回もの「やり直し」を乗り越えて、よくここまで頑張ってくれました。その結果ご協力園(校)も45になりました。校長先生のお宅の庭先で縫っていた当初には考えられなかった「作業所」も完成し、お母さん達も10名から22名に。「現地の活動を自立させていく事」が今後の課題です。



庭先から衛生的な作業所に。「こんな立派な所で働けるなんて」と仕事に誇りが生まれました



2014年4月からコールタメイ小学校のお母さん達も加わりました



お母さん達も頑張りました。皆こざっぱりとして綺麗になってきたのにはビックリ!



販売できないひどい縫い目の物が届いて仰天したミシン作業。諦めずに縫い続け、今は本当に上手になりました。



布も衛生的に管理できる様になりました。



日本での布の型紙書き、洗濯、アイロン、紐通しはすべて大勢のボランティアで支えられています。この力あっての活動です。



2年前から始まった多摩川幼稚園現役のお母さん達による裁断ボランティア。大助かりです



啓明学園小学生も紐通しボランティアに参加。



こんなイベントにも参加して活動アピール！



玉川学園小学校での販売風景



1月～3月は各保育園で、こんな籠を置いてもらいご協力して頂いています。



端布の有効利用として「アクセサリ作り」が誕生。予想以上の人気活動になっています。



ご協力園のイベントに出店させて頂いています。「助かります！」の声が何より嬉しいです。

# 色々な交流がありました



訪問時は学校の子もたちや村の人たちと色々な交流を図ってきました。**この様な交流が人と人そして国と国の信頼関係に繋がり、平和への架け橋になると信じています。**



初めてみる「社交ダンス」子ども達はちょっと恥ずかしそうでした。



ハーモニカに合わせて踊りを披露。初めてみる浴衣に皆興味津々でした。



村の一般家庭をお尋ねしての交流も



コールタメイ小学校に寄贈した職員宿舎に宿泊体験したことも。貴重な体験でした





手作りオセロをいくつも用意して。



初めての絵の具を楽しみました



言葉が通じなくても心は通じます



シャボン玉に目を輝かせた子ども達



一人飛び、大縄跳びは大人気でした



折り紙はちょっと難しかったね！



音楽は世界共通。ウクレレに集まる子ども達。



実物大の折り紙の折り方。先生達が大喜びでした。今も教室に貼ってあります。

## 様々なご協力有難うございました

### 助成金及び寄付団体

(株) ラッシュジャパン  
 JICA (独立行政法人 国際協力機構)  
 かめのり財団  
 ひろしま・祈りの石国際教育交流財団  
 庭野平和財団  
 ゆうちょ財団  
 秋川ロータリークラブ  
 昭島ロータリークラブ  
 昭島ソロプチミスト  
 いずみの会  
 九十会



### 絵の具及び絵筆

桃源堂

### 布を特別価格で

日暮里 安田商店

### 記念プレート制作

(有) 平宮

### 自動販売機設置

医療法人 山育会  
 昭和の森テニスクラブ  
 細谷進



### ソーラーランタン

Panasonic

### 28年度(27年7月1日~28年6月30日)ご寄付頂いた皆様(50音順)

秋山映美	(株)ラッシュジャパン	菅野ミヨ子	土井智生	光の子保育園	みその幼稚園
池田政江	川邊悟子	杉浦比登美	東京昭島ロータリークラブ	土方崇	妙福寺戸田一誠
石田眞市	北川綾子	住本典之	桃源堂	日野しらゆり幼稚園	向山良子
いずみの会	工藤和泉	諏訪の森齊藤	同友会	平島正登	明星大学ツアー参加9名
磯崎千枝子	90会	関根真理	戸谷良子	平野異男	明照幼稚園
伊藤和美	啓明学園	染谷昌美	直井誠	平野隆生	(有)IQI
井上殿尹	大24回ツアー参加14名	高木景子	中野直明	FACTORY—B.COM釣り大会	安永邦子
上田恵子	国際ソロプチミスト昭島	高瀬千尋	西玲子	藤谷正一	谷津慶次
牛久保奈未	国際ソロプチミスト昭島有志	高橋俊夫	根本徳子	船津妙子	柳賢司
浦野悦美	小島徳太郎	竹内希衣子	野本俊子	船津英夫	山崎芙蓉
欧87会	小寺拓夫	竹内たえ子	橋本直紀	古谷良司	山育会
大浦眞佐子	小林優文子	田澤淳	長谷川安年	法理則夫	吉田勝重
大貫政義	小山廣重	田辺崇	長谷川正	細谷進	吉田泰輔
大沼陽子	小山善治	田野倉陽子	長谷川照代	前田邦子	ラッシュ糧原店
大野隆司	斉藤君代	多摩川教育センター	長谷川義年・啓子	牧野幹司	若槻康二
岡部道明	酒井淑子	多摩川幼稚園募金	八王子白百合幼稚園	松倉 泉美	渡辺新太友人
樋端敦子	坂本静枝	多摩川50周年寄付	瀧川喜豆	松田軽装工業	渡辺健児
(学)多摩川学園	桜庭玲子	多摩信用金庫秋川支店	瀧川明子	(有)松村商店	渡辺政雄
かしの木幼稚園	清水和子	千葉辰男・妙子	原欣也	松村博文	
勝西光治	末宗千代子	中国研究会	半田孝好	三浦修子	

# おわりに

副理事長 大沼 陽子

今でこそ副理事長としてNPO活動に万進しておりますが、父（理事長長谷川）がカンボジア支援を始めた当初は全くの無関心だった私でした。2008年に初めてカンボジアを訪問し、その現状を「見て知ってしまった者の責任」を感じ、ASAPの活動にかかわり始めました。

「支援を無駄なく現地に届ける」「活動内容を支援の皆様へ報告する」為に、私自身年2回訪問してカンボジア通信を発行して参りましたが、気付けば9年です。訪問の度に感じるのはボルポトの「知識人大虐殺」の影響で今でも『教育を受けた層（約25才以上）がすっぽりいない』という事が、カンボジアにとってどんなに苦しい状況かという事です。何をするにも大変です。日本ではごく当たり前のことが、実は非常に幸せで恵まれていることなのだと感じずにはいられません。それでも支援している学校には笑顔と喜びが溢れています。ご支援頂いている皆様一人ひとりに現地で見て頂きたい…拙い文章とは思いますが、その思いを文に込めて参りました。

この10年、仰天する様な大失敗を沢山したのも事実です。どうにか乗り越え進んでこれたのは、あきれても見捨てずに支え続けてくれた沢山の方たちの存在です。本当に有難うございました。

資金面、ボランティア、色々な形の「善意」が集まってこのカンボジア支援が成果を上げてきたことを痛感せずにはいられません。そして皆様からの「善意」を現地に届ける役割をさせて頂ける事に感謝の気持ちで一杯です。

粗忽者の私ですが、次の10年を見据えて支援活動を続けて参りますので今後共よろしくお願い致します最後に勝手ながら、私の忘れられない『番外！出来事ベスト10』を上げさせていただきます！



## 1.日本語取得プロジェクト

言い出しっぱの責任、助成金書類、私生活の事が重なって泣きたいほど忙しかった

## 2.大雪で飛行機が飛ばない（大臣出席の落成式に間に合わない！！）

大雪で飛行機欠航。飛行機手配に成田空港を走り回り、搭乗券を手にした時は思わず「神様有難う！」

## 3.とんでもないものが届いて納品が間に合わない！

グチャグチャのミシン。左右逆の作り。「なんでよ===！」と座り込んだ窮地を救ってくれたボランティアの皆さん。私はあの時の救いの手を忘れません。

## 4.Mother to Mother 2 重支払事件

賃金を2重支払いした事に気づいた時（帰りのバスで）の全身から噴き出した汗と周りの凍り付いた空気…思い出したくない！

## 5.タイヤ遊具制作プロジェクト

道具も足りず、ペンキもうまく塗れない…ダメかと思った時が皆の力が結集。

## 6.教育長さんとバトル

タットムの旧校舎取り壊しを進めない郡の教育長とバトル。怒って部屋を飛び出た教育長！冷や汗ものでした。

## 7.村に宿泊

夜飛び込む幻想的な世界。村のニワトリをつぶして作ったスープ。絶品！

## 8.クラウドファンディング

ご飯もどを通らないとはあの事。でも、人の善意をあれほど感じた事はなかったです。

## 9.みんなやられました「下痢と発熱」

理事長含む ASAP スタッフ関係者で病院にかかっているのは私だけです！！

## 10.土砂降りの「プレアヴィヒア観光」

雨に濡れて理事長が歩けなくなり山道をバイクで下山。（理事長人生初のバイク二人乗り！）

## Mother to Mother 活動ご協力先 (50 音順)

秋川あすなろ保育園	至誠いしだ保育園 (日野)	多摩川幼稚園 (あきる野)	万願寺保育園 (日野)
昭島ゆりかご保育園	至誠学園 (立川)	多摩川ベビーハウス	みどりの園保育園 (あきる野)
昭島ゆりかご第二保育園	至誠第二保育園 (日野)	玉水保育園 (羽村)	みその幼稚園 (板橋)
アングル (荻窪)	しせい太陽の子保育園 (日野)	調布白菊幼稚園	むぎの穂第二保育園 (大阪)
五日市わかば保育園	白百合幼稚園 (八王子)	つみき保育園 (武蔵村山)	めぐみ幼稚園 (立川)
ウィズチャイルド (多摩市)	杉ノ子第三保育園 (福生)	西秋留保育園 (あきる野)	明照幼稚園 (葉山)
ウッディキッズ保育園 (あきる野)	すみれ保育園 (福生)	ハーモニー保育園 (府中)	大和富士幼稚園 (大和)
啓明学園初等学校 (昭島)	諏訪の森保育園 (立川)	光の子保育園 (京都)	ゆりかご保育園 (昭島)
啓明学園高等学校 (昭島)	聖愛幼稚園 (福生)	日野しらゆり幼稚園	わかたけ元町保育園 (所沢)
こどもリビング (多摩)	立川かしの木幼稚園	日野・多摩平幼稚園	
さかえ幼稚園 (羽村)	玉川学園幼稚部 (町田)	福生本町保育園	
至誠あずま保育園 (日野)	玉川学園低学年 (小学部)	松原保育園 (昭島)	

## ASAP の活動は皆様からのご支援で成り立っています 会員や支援者となって活動を支えて頂けませんか？

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。

- \* 正会員… 年 20,000 円
- \* 賛助会員… 毎月 1,000 円 (年額 12,000 円)
- \* その他支援金… 金額を問わず随時受け付けております

■郵便振替口座 00130-2-594647 『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033 普通口座 1292601  
口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会  
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

### ASAP カンボジア通信 ASAP 会報 Vol.19 2017.4

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会  
(省略 “ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)

FAX 042-550-2467

メールアドレス [asap@tamagawa-kids.jp](mailto:asap@tamagawa-kids.jp)

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap/>

■発行人 長谷川 安年